

2020年4月9日（木）

一般社団法人 日本脳卒中学会  
理事長 宮本 享  
一般社団法人 日本循環器学会  
代表理事 小室 一成

COVID-19に関する日本脳卒中学会・日本循環器学会  
共同声明

一般社団法人日本脳卒中学会・日本循環器学会は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が拡大する現状に対し、脳卒中・循環器病の救急医療体制維持に強い危機感を抱き、早晩にも未曾有の崩壊に陥ることを強く懸念しています。COVID-19に対して注目が集まる社会状況において、救われるべき脳卒中・循環器病を突然発症した患者が適切な救急医療・急性期治療を受けることができる体制を保持するために、以下の声明を発表いたします。

この声明は2020年4月6日に日本脳卒中学会と日本循環器学会で協議を行い、それぞれワーキンググループを作成ののちに両学会の緊急理事会承認を得たものです。

**1 地域医療圏における医療供給情報の共有と有効利用**

脳卒中・循環器病の救急医療が崩壊しないために、地域医療圏における医療の供給情報を医療関係者と行政が共有し、地域における医療体制を有効利用するシステム構築に向けて国や各自治体と全面的に協力します。

**2 COVID-19 発生数を減らす有効な対策実現**

COVID-19の発生数抑制のために、行政のリーダーシップのもと、両学会は国民および医療機関と協力し、病院内外の最適な感染対策実現を目指します。

**3 脳卒中・循環器病救急医療施設間での院内感染対策を含む情報共有**

COVID-19対策に必要な、感染症に限らない幅広い診療科間での密な連携、脳卒中・循環器病救急医療体制の整備、医療施設間での質の高い情報共有に全力を尽くします。

両学会には、呼吸循環管理のエキスパートとしてCOVID-19重症肺炎患者に対する体外式膜型人工肺（ECMO）を用いた治療などにおいて中核的なメンバーとして力を尽くしている会員も多く、今後もCOVID-19に最大限の対応を継続します。その上で、COVID-19が日本国内でこれ以上の爆発的増加になることを全力で阻止し、日本国内全ての地域における医療機関の医療体制破綻や医療従事者の感染を防ぎつつ、本来の質の高い脳卒中・循環器病含む全疾患治療体制の継続に向けて、できうる限りの努力をする覚悟です。